

令和八年度入学者選抜 一般選抜 試験問題

試験科目 国語

〔受験上の注意〕

- 一 用紙は、すべて試験開始の合図があるまで開かないこと。
- 二 試験開始後、ただちに次のことについて、よく確かめること。
 - ア、乱丁、落丁のある場合は、試験開始後速やかに手を挙げ、監督者に知らせること。
 - イ、問題用紙は、全部で十一ページである。
 - ウ、解答用紙は、外国語学部が一枚、日本文化学部・教育福祉学部が三枚である。
日本文化学部・教育福祉学部の解答用紙に含まれている白紙は、メモ又は下書に利用してよい。この白紙は、持ち帰ること。
 - 三 解答用紙の氏名欄・受験番号欄は必ず記入すること。
 - 四 解答は、所定の欄内に楷書ではっきりと記入し、欄外には記入しないこと。
 - 五 問題用紙の余白は、メモ又は下書に利用してよい。
 - 六 問題用紙は、持ち帰ること。

外国語学部の受験者は一のみを解答すること。

日本文化学部・教育福祉学部の受験者はすべて解答すること。

試験開始	12:30
試験終了	外国語学部 13:30
	日本文化学部 教育福祉学部 14:00

— 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、文章は問題文とすることにあたって、原文を一部改めたところがある。

著作権処理中

著作権処理中

著作權処理中

著作権処理中

(福永真弓「自炊と自己家畜化」『ユリイカ』二〇二五年三月より)

(注)

森岡…森岡正博。日本の哲学者。

中食…調理済みの食材を買って持ち帰り、職場や家庭などで食べること。

問一 傍線部①②③の漢字をひらがなに改めよ。

問二 傍線部①について、「インフラ」の説明となっている表現を本文中より一六字で抜き出せ。

問三 傍線部②について、三〇字以内でその理由を具体的に説明せよ。

問四 空欄には「外部から独立して影響を受けない」という意味の言葉が入る。本文より二字で抜き出せ。

問五 傍線部③について、ここでいう「セルフハンドリング」とはどのようなことか、五〇字以内で説明せよ。

問六 傍線部④について、文章全体を踏まえ八〇字以内で説明せよ。

二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 い に 答 え よ 。 な お 、 文 章 は 問 題 文 と す る に あ た っ て 、 原 文 を 一 部 改 め た と こ ろ が あ る 。

元三は歳のはじめ、月のはじめ、日のはじめとて、一天四海の人々の、かしこきも愚かなるも、愁ひあるも愁ひなきも、貴きもいやしきも、いはひかざること、かはる事なしとみゆ。…(中略)…昨日の夜半過ぐるまで、人の門たたきて、何事にかあらん、^④ことごとしく足を空にまどふが、ただ一夜^⑧あけぬれば、ひきかへ、心もゆるゆると、又とも晦日の来るべき心もなくて、野辺の小松に千代万世をいはひそめ、いつ死ぬべきものとはなしに、万のことをいみおそれ、^①朝の露に名利をむさぼり、^②夕の陽に子孫を愛し、蟻が磨^もをめぐるがごとく、おなじことをぐるりくると、五百八十年七まがりといはひて、世を秋風の心は露ちりほどもなき人心を、一休おかしくおぼしめし、^⑥「誠におろかなるかな。權^{あまがけ}の晷^{ひかげ}まつ間をもさかり久しき花とながめ、かげろふの青天に羽をふるひて、たのしむ間もなき世の中に、糞に箔塗る正月ことばや。ただ時の間の煙ともなりなむと、^③打ち見るよりに思はるる。いで物見せん人々よ」と、墓原へゆきて、しやれかうべをひろひ来り、竹のさきにつらぬきて、^⑤比は正月元日の早天に、洛中の家々の門の口へ、によこによこと^か彼しやれかうべをさし出だし、「御用心御用心」とてありき給ふ。皆人いまはしくて門さしこめて居けるより、今に正月三日は門戸を鎖^かしけるなり。

しかれば一休を見まいらせて、或る人のいへるは、「御用心とは尤も至極なり。いはひてもかざりても、終には皆人かくのごとし。されども世の習ひにて、かくいはひよるごぶに、そのむくつけなきしやれかうべを、家々へ出ださることは、御ちがいならずや」と申しければ、「さればよ、われもいはひて此しやれかうべをおのおのに見するなり。めでたしといふこと、いかが心得けるぞや。むかし天照おほんがみ、岩戸をひらきたまひしより、^⑦ことおこるといへども、此しやれかうべよりほかに、めでたきものはなし」とて詠める、

^④にくげなき此しやれかうべあなかしこ目出度^{めて}かくこれよりはなし

と侍り給ひて、「是見^みよや人々、目出たるあなのみ残りしをば、めでたしといふなるぞ。皆人^{みな}ごとにかくとは^②はしるらめど、きのふも過ぎし心ならひにけふをくらしつ、^⑤あすか川の淵瀬常ならぬ世とは目に見ぬからに、^⑥風の音にもおどろかぬ人々に用心せよ

とおもふなり。ただ人は是にならねば、目出度事めでたきはなにもなし」とのたまへば、諸人これを聞きて、「さてもかしこきひじり」とて、おがまぬ人はなかりけり。

（「一休ばなし」より）

（注）

元三…正月一日。

小松…小松引き。中古、正月初めの子なの日に野山で根長の小松を引き抜いて長寿を祝った行事。

五百八十年七まがり…五百八十年と、干支の七回り四百二十年。合わせて千年の意で、長寿を祝う言葉。

糞に箔塗る…くだらない物のうわべを飾り立てる。

しやれかうべ…風雨にさらされて肉の落ちた頭骨。

むくつけなし…「むくつけし」に同じ。

問一 傍線部①、②、③の本文に即した意味を記せ。

問二 傍線部④、⑤、⑥を例にならって文法的に説明せよ。

例 マ行上一段活用動詞「みる」未然形＋打消の助動詞「ず」連用形

サ行変格活用動詞「せいす」連用形＋謙讓の補助動詞「きこゆ」終止形

問三 傍線部⑦、⑧はどのようなことのためか、記せ。

問四 傍線部⑨について、主語を補って現代語訳せよ。

問五 傍線部⑩について、二つの掛詞に注意して現代語訳せよ。

問六 傍線部⑪は、『古今和歌集』の和歌「昨日といひ今日と暮らしてあすか河流れてはやき月日なりけり」「世の中はなにか常なるあすか河昨日の淵ぞ今日は瀬になる」と、『徒然草』の「飛鳥川の淵瀬常ならぬ世にしあれば」を踏まえている。この点に注意して、意味を説明せよ。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた部分がある。

姚元崇開元初為中書令。有善相者來見。元崇令密於朝堂

目諸官後當為宰輔者。見裴光庭白之。時光庭為武官。姚公

命至宅与語。復使相者於堂中垂簾重審焉。光庭既去。相者

曰、「定矣。」姚公曰、「宰相者所以佐天成化。非其人。莫可居

之。向者与裴君言。非応務之士。詞学又寡。寧有其禄乎。」相者

曰、「公之所云者才也。僕之所述者命也。才与命固不同焉。」姚

默然不信。後裴公果為宰相数年。及在廟堂。亦称名相。

〔太平広記〕より

(注)

姚元崇^{よげんすう}…姚崇の最初の名。姚崇は玄宗の宰相。後の「姚公」「公」も同じ。

開元…唐の玄宗皇帝の年号。

中書令…中書省の長官。

善相者…人相見。後の「相者」も同じ。

朝堂…官吏が政務に携わる場所。

宰輔…宰相に同じ。

裴光庭^{はいこうてい}…人名。後の「裴公」も同じ。

垂簾…ここでは垂らされたすだれの内側のこと。

所以佐天成化…「天の運行を助けて人民の教化を行うためのもの」の意。宰相は立派な政治をすることを通じて、これらを

行うものだと考えられていた。

応務之士…仕事をてきばきとこなす人物。

詞学…詩文を作る能力。

其祿…宰相の俸祿。ここでは宰相の地位も意味する。

廟堂…天下の政治をつかさどる場所。

名相…名宰相。

問一 傍線部A①B②C③の読みを送り仮名も含めてひらがなで記せ。

問二 傍線部①について、誰が誰にどのようなことを言ったのか明確に記せ。

問三 傍線部②のようなことを「姚公」がした理由を述べよ。

問四 傍線部③を書き下し文にせよ。

問五 傍線部④と同じ意味を持つ二字の熟語を記せ。

問六 姚元崇と人相見が意見を異にした理由について、六〇字以内で説明せよ。